

右岸における

エリア分類(案)・植生プラン(案)

および樹林地の管理(案)

1 目指す武蔵野の面影

稲荷山公園基本計画(整備イメージ)における目指す武蔵野の面影

広大な武蔵野台地に田畑が広がり、川が流れ、雑木林や屋敷林が点在し、豊かな自然で溢れていたかつての練馬の風景

時代設定およびイメージ

都市計画決定された昭和30年代前半をイメージ

出典：練馬わがまち資料館より



白子川流域の水田(昭和31年頃)



別荘橋(白子川)の上流風景(昭和34年頃)



キャベツ畑と屋敷林(昭和33年頃)



屋敷林(南大泉付近)(昭和33年頃)

2 武蔵野の面影に適した樹林景観

武蔵野の雑木林の素描（大澤委員より）

参考文献：1941 年発行の田村剛・本田正次編「武蔵野」

（科学主義工業社）

この中の「武蔵野の樹木」の章（上原敬二著）では、武蔵野の樹林景観として 8 類型している（右表）。

同章では、武蔵野樹林形の実相として以下のとおり解釈される。

- ・無限に広がる平野の中に、集団をなしている雑木林。それが、飛地状に集団をなしている。
- ・手入れが行き届きすぎず、とって原生自然でもない、半自然の状態（の野趣・雰囲気）
- ・ススキの原（半自然高茎草地）の美しさ
- ・並木景（水路等の土手に沿って列植されたほぼ単一樹種からなる景観）

同文献の「武蔵野の野草」の章（本田正次著）では、雑木林の植物（林内および下草、林縁）の季節毎の豊富さが記されるが、加えて草地（野）、池・湿地、水田・溝、荒川沿岸の低湿地草地、多摩川の河原等、多様なハビタットが存在することも記されている。

ハビタット：野生生物の棲み場所、生息地のこと

稲荷山公園の雑木林像を求める際の留意事項(大澤委員より)

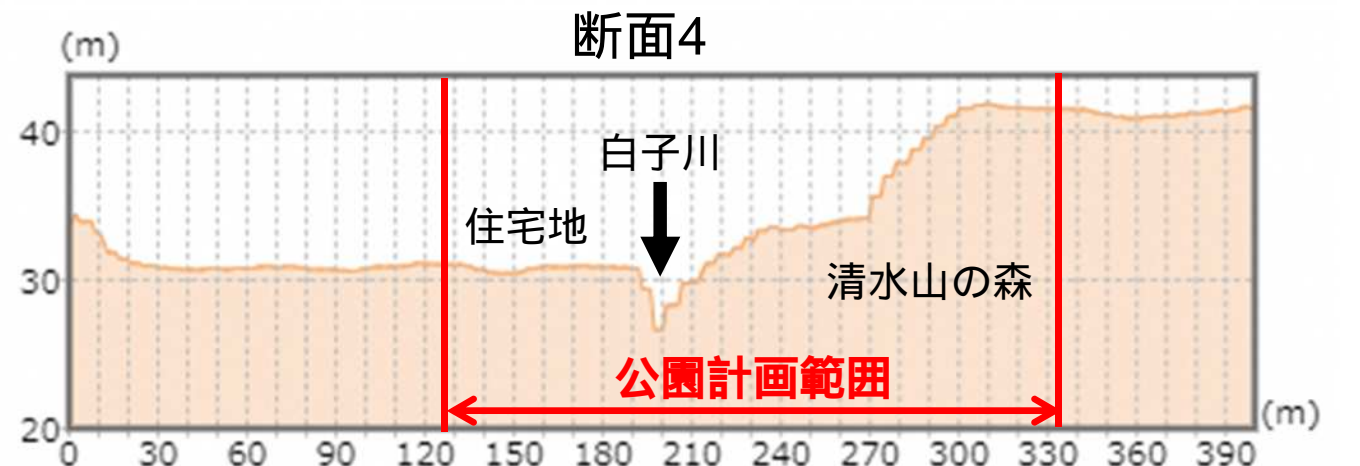
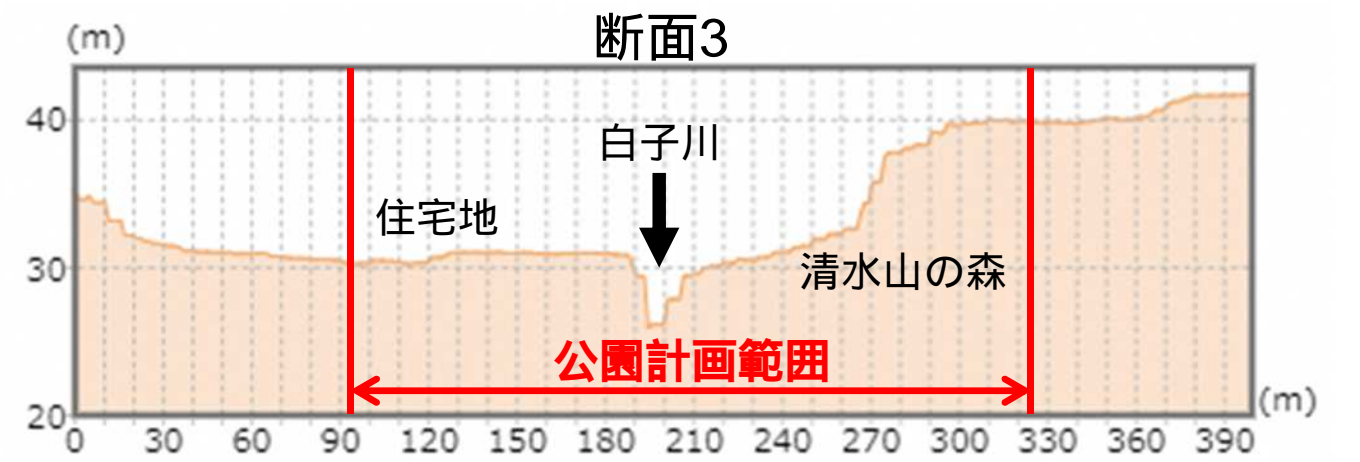
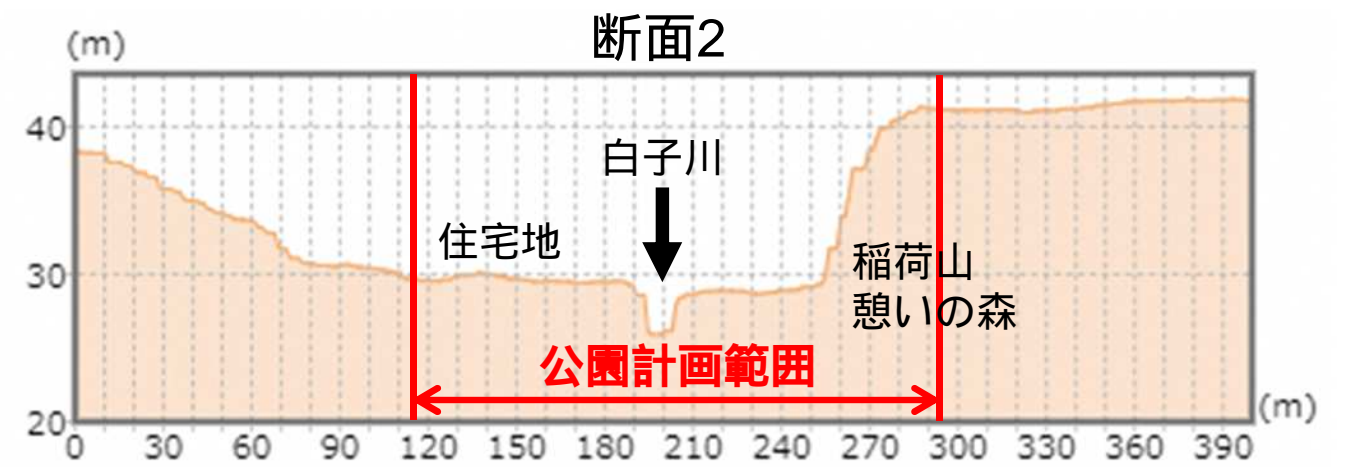
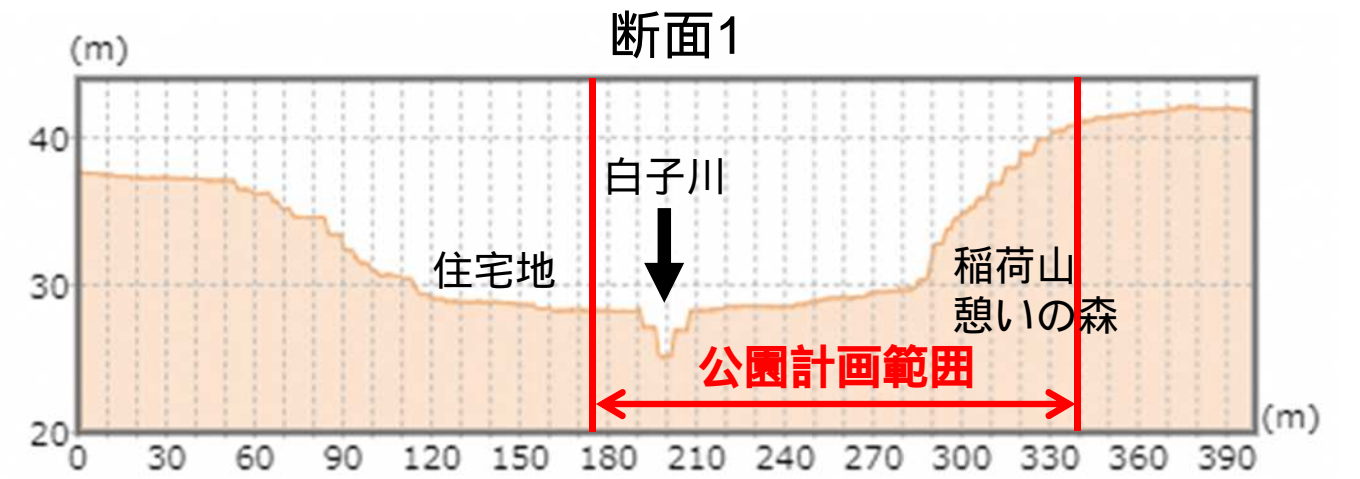
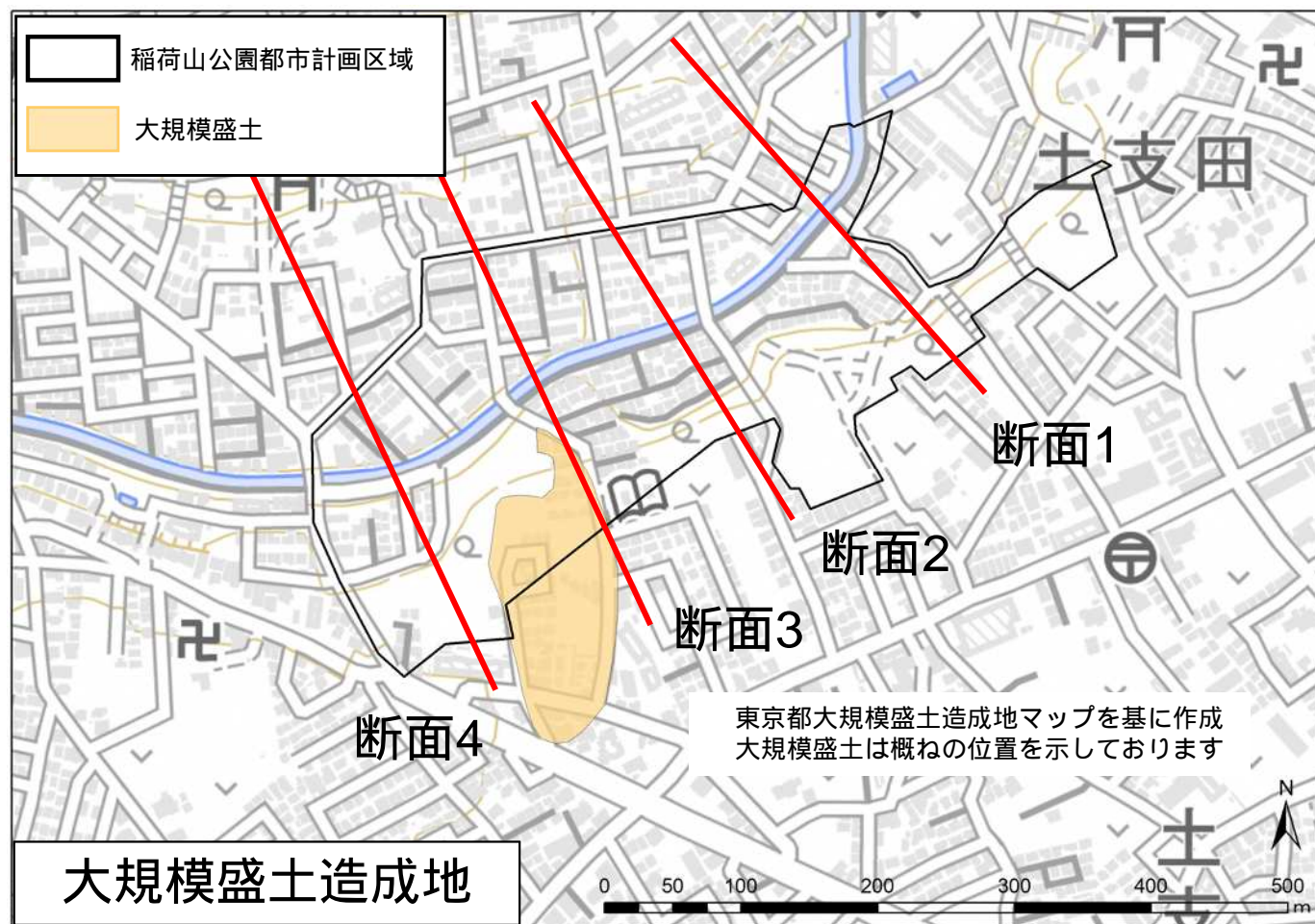
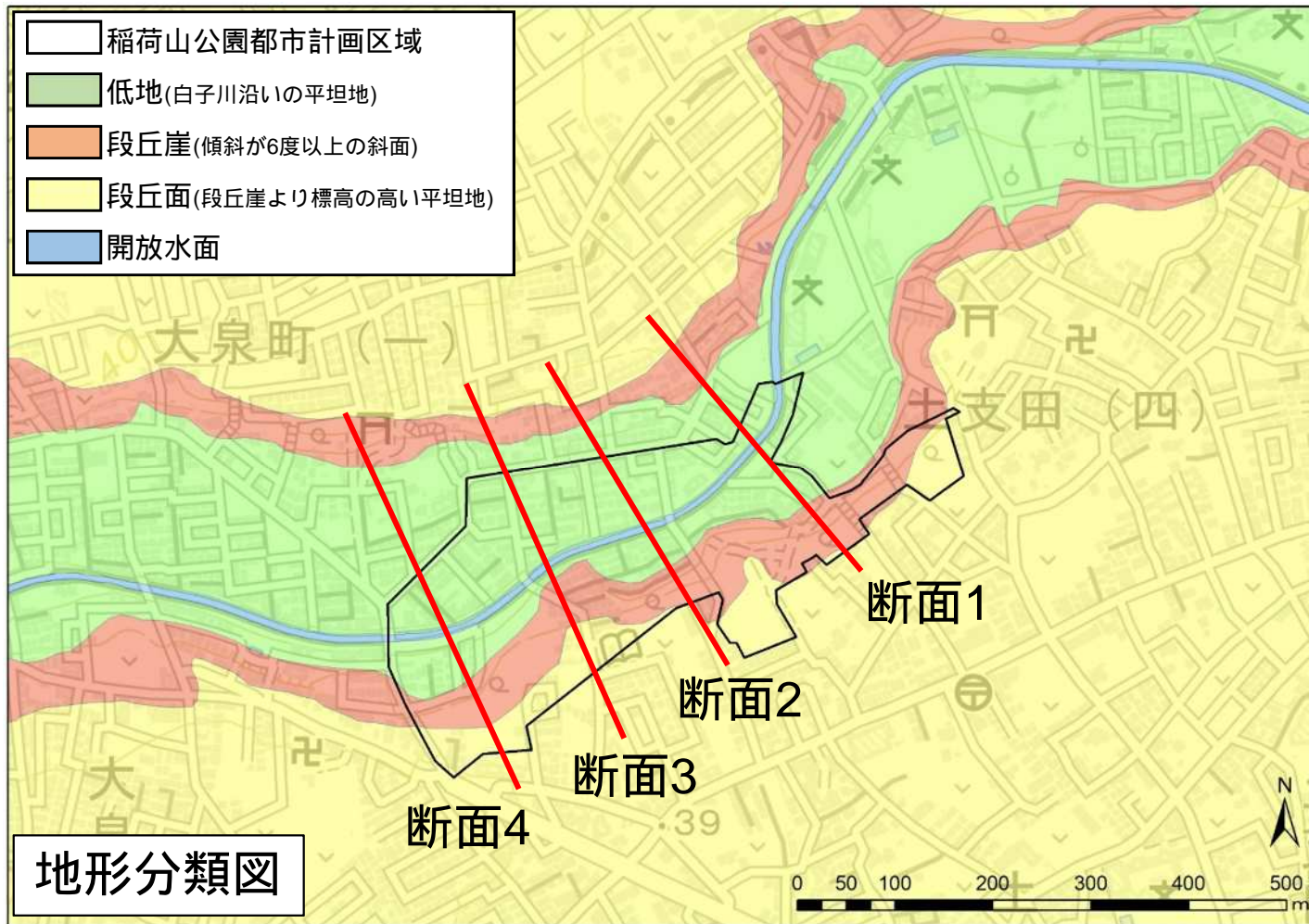
- ・ 林（主に落葉広葉樹林）と 野（乾性立地の半自然草地）、水辺の混在する状態とする
- ・ 必ずしも清水山の森と稲荷山憩いの森の樹林地の連続・一体化を目指すのではなく、林縁～草地のエコトーン 的な環境を適宜確保する
- ・ 樹林については長期的な視点で、武蔵野の雑木林に相応しい樹種転換を図る
- ・ 林床管理が毎年入る樹林と、（複数段階の強度の）粗放管理の樹林を設け、林内の植物種の多様性が増すようにする
- ・ 林床管理（下刈り、落ち葉掻き等）の内容については、エリア毎の特性に合わせて検討する
- ・ カタクリを始め、稲荷山公園内の希少在来野草類（あるいは環境指標性の高い在来野草類）の把握と、その種の保全および生育地の拡充を図る
- ・ 乾性地から湿生地にかけての半自然草地を適所に設ける
- ・ 水辺の要素として、2つの湧水地とその流れ、および白子川沿いを積極的に活用する（水量が確保できれば水田要素も入れ込む）
- ・ 公園利用者に、武蔵野の雑木林像が伝わる工夫をする

表 「武蔵野」による武蔵野を特徴付ける樹林景観の類型

*該当する植生タイプ

	植生タイプ*	構成種
第一種林	常緑広葉樹林	クスノキ、カシ類、マテバジイを第一としてタブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、モッコク、モチノキ、トベラ、カナメモチ、マサキ、サカキ、ヒサカキ、イヌツゲ、ヤブツバキ、ヒイラギ、アオキ
第二種林	中間温帯林	モミ、ツガ、カヤ
第三種林	マツ林	アカマツの疎林、クロマツ
第四種林	針葉樹植林	スギ、ヒノキ、サウラ
第五種林	落葉広葉樹林	ケヤキを主、ムクノキを従、副としてエノキ、サイカチ、イヌエンジュ、カラスザンショウ、ミズキ、ケンポナシ等。時にトチノキ、ホオノキ
第六種林	落葉広葉樹林	シデ類、ハンノキ、ヤマハンノキ、ヤシャブシ、ニレ類、エゴノキ、ニガキ、アカメガシワ、クロウメモドキ、ヤマナラシ、ゴマギ、イヌザクラ、ハシバミ、クロモジ、ハナイカダ、タラノキ、ウコギ、コクサギ、イヌザンショウ、コブシ、ガマズミ、ヤブデマリ類、ウメモドキ、イイギリ、マユミ、ゴンズイ、ツルウメモドキ、ムラサキシキブ、カマツカ、ヌルデ、ヤマハゼ、ヤマモミジ、リョウブ、スノキ、イヌザクラ、カキ。低木として、ニワトコ、グミ類、クコ、クサボケ、ノイバラ類、木性イチゴ類、イボタノキ、ハギ類、キブシ、クマヤナギ、ヤナギ類、ツル生としてアケビ類、マタタビ、エビヅル、ヤマブドウ、ツタウルシ、ツタ
第七種林	落葉広葉樹林	コナラ、クヌギを主として、クリが混ざる。副としてエゴノキ、シデ類、ハンノキ、ヤマハンノキ、イヌザクラ等
第八種林	竹林	モウソウチク、マダケ

3 稲荷山公園周辺の地形の状況（第3回資料再掲）



4 雨水の流向と集水範囲（地形からみた推測）

- 住宅の敷地に降った雨水は 地中に浸透 下水管に流入 地表を流れて道路に流出すると考えられる。
- 道路に降った雨水および宅地から道路に流れ込んだ雨水は、道路の傾斜に沿って流下し、側溝を介して下水道に流入または白子川に流入すると考えられる。道路上に低地となっている箇所があり、そこでは水が集まる可能性がある。（図 - 1のピンク色の着色）
- 現在の清水山の森や稲荷山憩いの森内に降った雨水は、地中に浸透するか、地表を地形に沿って流下すると考えられる。地表を流れる雨水は、稲荷山憩いの森、清水山の森では湧水地点に流れていくと推測される。

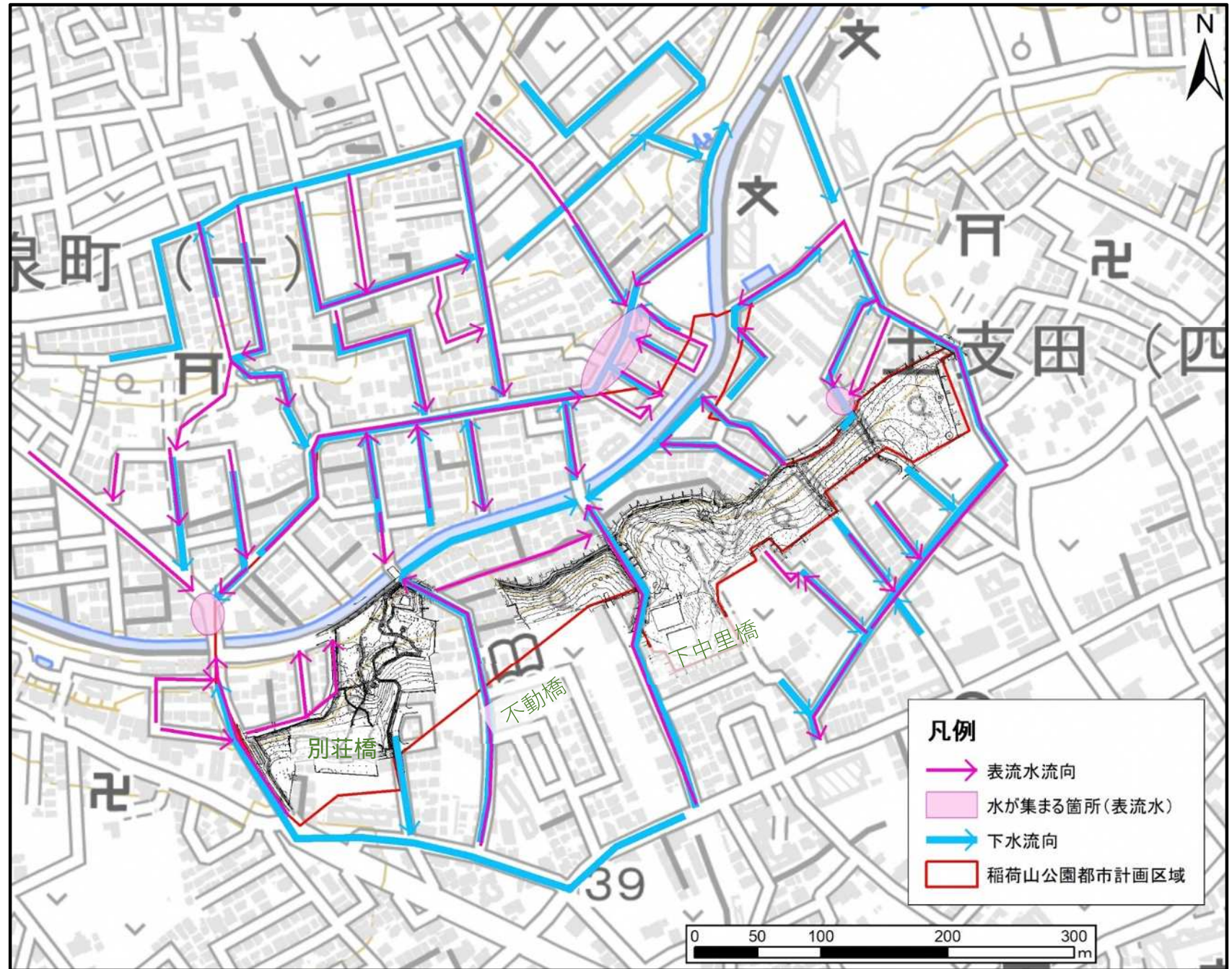
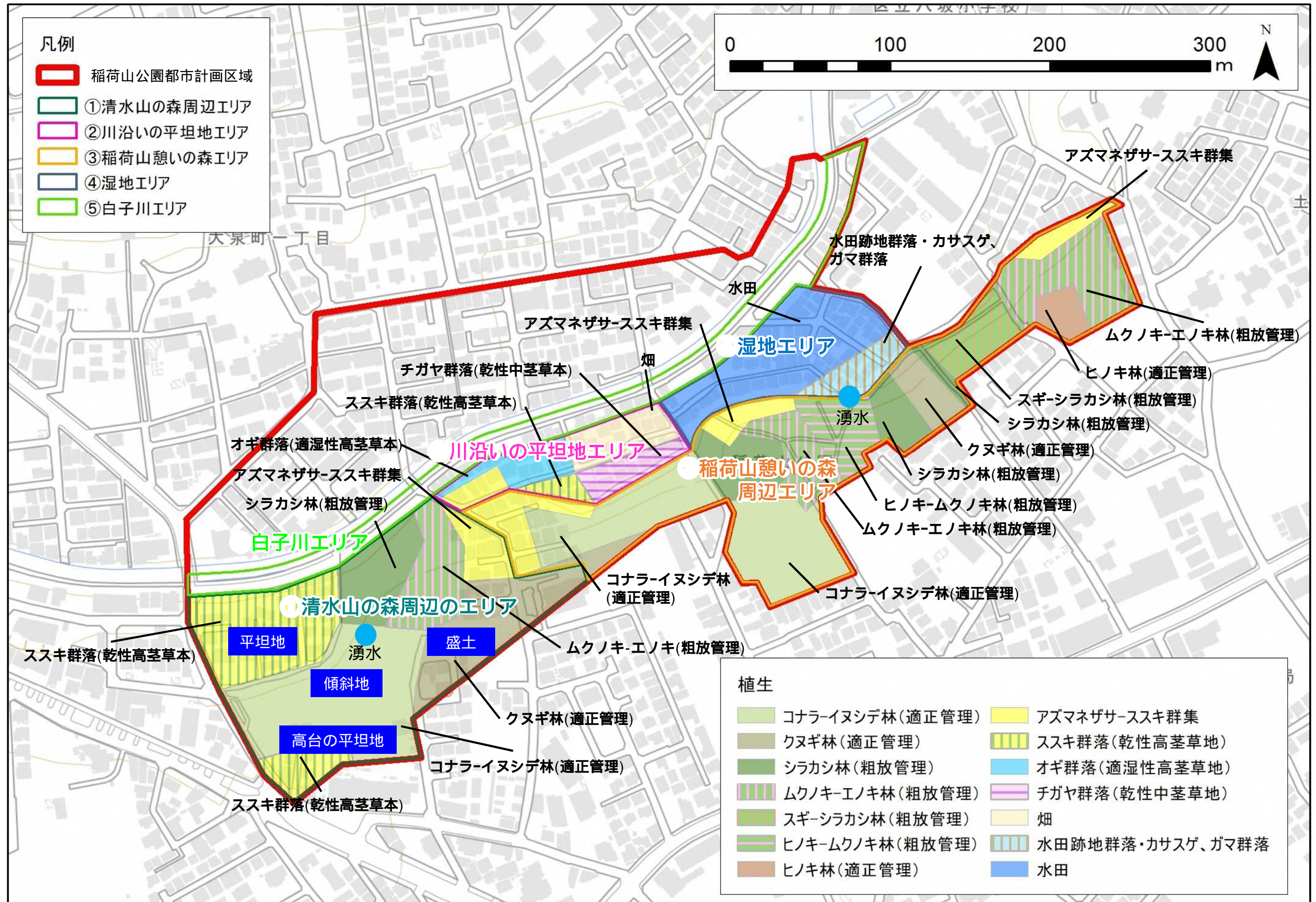


図 - 1 地形から見た雨水の流向および下水道の流向

5 エリア分類（案）・植生プラン（案）



5 エリア分類（案）・植生プラン（案）

・植生ごとの整備・管理方針は、樹林や半自然草地を新たに造成する「再生」、樹林や樹林内に生息・生育する動植物の保全を図る「保全」、自然観察や散策の場等としての活用を図る「活用」の3種類に整理した。

表 エリア分類(案)・植生プラン(案)別の整備・管理方針（案）

将来のエリア分類		植生プラン（案）	整備・管理方針(案)	備考
清水山の森周辺エリア	高台の平坦地	コナラ - イヌシデ林（適正管理）	再生・保全	・カタクリ等が生育する傾斜地のコナラ - イヌシデ林と隣接する箇所であるため、コナラ - イヌシデ林を再生して傾斜地のコナラ - イヌシデ林と一体的な樹林の形成を図る。
		ススキ群落	再生・保全	・傾斜地と高台の平坦地のコナラ - イヌシデ林と隣接する箇所であり、草原を再生し、樹林内の乾燥化を防ぐ等の機能の発揮を図る。 ・草原性の動植物の生息・生育空間として保全を図る。
	盛土	クヌギ林（適正管理）	再生・活用	・クヌギ林を再生して、散策や自然観察等の場として活用する。 ・自然観察等の活動の屋外拠点となるスペースを確保する。
	傾斜地	コナラ - イヌシデ林（適正管理）	保全	・カタクリ等が生育する樹林であるため、カタクリ等の希少植物を保全する。
		ムクノキ - エノキ林（粗放管理） シラカシ林（粗放管理）	活用	・現在、散策などに利用されている樹林であるため、遊歩道周辺を中心に管理を実施し、引き続き散策や自然観察等の場として活用する。
平坦地	ススキ群落	再生・活用	・別荘橋付近から公園へのエントランスに該当する箇所であるため、ススキ群落を再生して草原の維持を図り、平坦地の草地と傾斜地の樹林から成る景観の形成を図る。 ・一部にエントランス機能を持つスペースを確保する。 ・草原性の動植物の生息・生育空間として保全を図るとともに、自然観察等の場として活用する。	
川沿いの平坦地エリア	オギ群落 ススキ群落 チガヤ群落	再生・活用	・草地を再生し、散策や自然観察等の場として活用する。	
	畑	再生・活用	・畑を整備し、農業体験等の場として活用する。	
稲荷山憩いの森周辺エリア	クヌギ林（適正管理）	保全・活用	・カタクリ等が生育する樹林であるため、カタクリ等の希少植物の保全を図り、散策や自然観察等の場として活用する。	
	ヒノキ林（適正管理）	活用	・稲荷山憩いの森の東側の高台上の入口となっており、林床は利用により踏み固められた裸地となっている。生育しているヒノキを育成する。	
	コナラ - イヌシデ林（適正管理） ムクノキ - エノキ林（粗放管理） ヒノキ - ムクノキ林（粗放管理） シラカシ林（粗放管理） スギ - シラカシ林（粗放管理）	保全・活用	・現在の植生を育成し、動植物の生息・生育の場とする。 ・遊歩道の周辺は下草刈り等を実施し、利用者の安全を確保する。	
	コナラ - イヌシデ林（適正管理）	再生・活用・保全	・コナラ - イヌシデ林を再生する。 ・現在、イチョウ林となっている箇所の林内の広場については維持を図る。	
	アズマネザサ - ススキ群落	再生・活用	・高台と傾斜地の境界付近に位置し、白子川沿いの平坦地を見渡す眺望点であるため、適正管理により眺望を遮る木本類の侵入防止や土砂流出防止等を図る。 ・現在の稲荷山憩いの森東端の入口となっており、園路とともに草原性の動植物の生息・生育空間として保全を図り、自然観察等の場として活用	
湿地エリア	水田 水田跡地群落・カサスゲ群落、 ガマ群落（湿生低茎～高茎草地）	再生・保全・活用	・湧水等を活用して湿地を再生し、散策や自然観察等の場として活用する。 ・水を確保できる場合は水田を造成する。	
白子川エリア	-	活用	・白子川の管理用通路や親水空間を整備する。	

6 将来の植生プランの実現に伴う目標となる動物相

- ・ 右岸は、単にみどりを増やすだけではなく、地域の生態系の回復に寄与する森の整備を目指すため、環境の指標となり、観察が容易であり、区民に親しみやすい種を目標種（案）とした。今後の公園整備・管理における指標とする。
- ・ 目標種（案）は、区内の緑地等で確認されている種から中心に選定した。

○将来の植生プランの実現に伴う目標種(案)

植生	鳥類	昆虫類	両生類	爬虫類
コナラ - イヌシデ林	アオゲラ、シジュウカラ、オナガ	カブトムシ、サトキマダラヒカゲ、 ミズイロオナガシジミ	-	ヒガシニホントカゲ
クヌギ林		タマムシ、ゴマダラチョウ		
ムクノキ - エノキ林		カブトムシ、ムラサキシジミ		
シラカシ林				
アズマネザサ - ススキ群集	ウグイス、スズメ	ショウリョウバッタ	-	ヒガシニホントカゲ
ススキ群落	ホオジロ 、スズメ	トノサマバッタ 、ヒメジャノメ、 ギンイチモンジセセリ		
チガヤ群落	スズメ			
湿性植物群落、水田	アオサギ	アカトンボ類（ナツアカネ、 アキアカネ 、マイコアカネ）、 コガムシ	アズマヒキガエル	-

注) **赤字**：清水山の森、稲荷山憩いの森の調査において未確認の種

目標種(案)の観点

環境の指標となる種

生息・生育の有無を確認することで、その場所の環境の状態を類推・評価することができる種

観察・識別しやすい種

特別な道具や方法を必要とせず、種の識別が容易に可能な種や地域住民が生活の中でよく目にする種

親しみやすい種

鮮やかな色を持つチョウや特徴的なさえずりをする鳥など、地域住民の興味を引きやすい種



ウグイス



ヒメジャノメ



ヒガシニホントカゲ



シジュウカラ



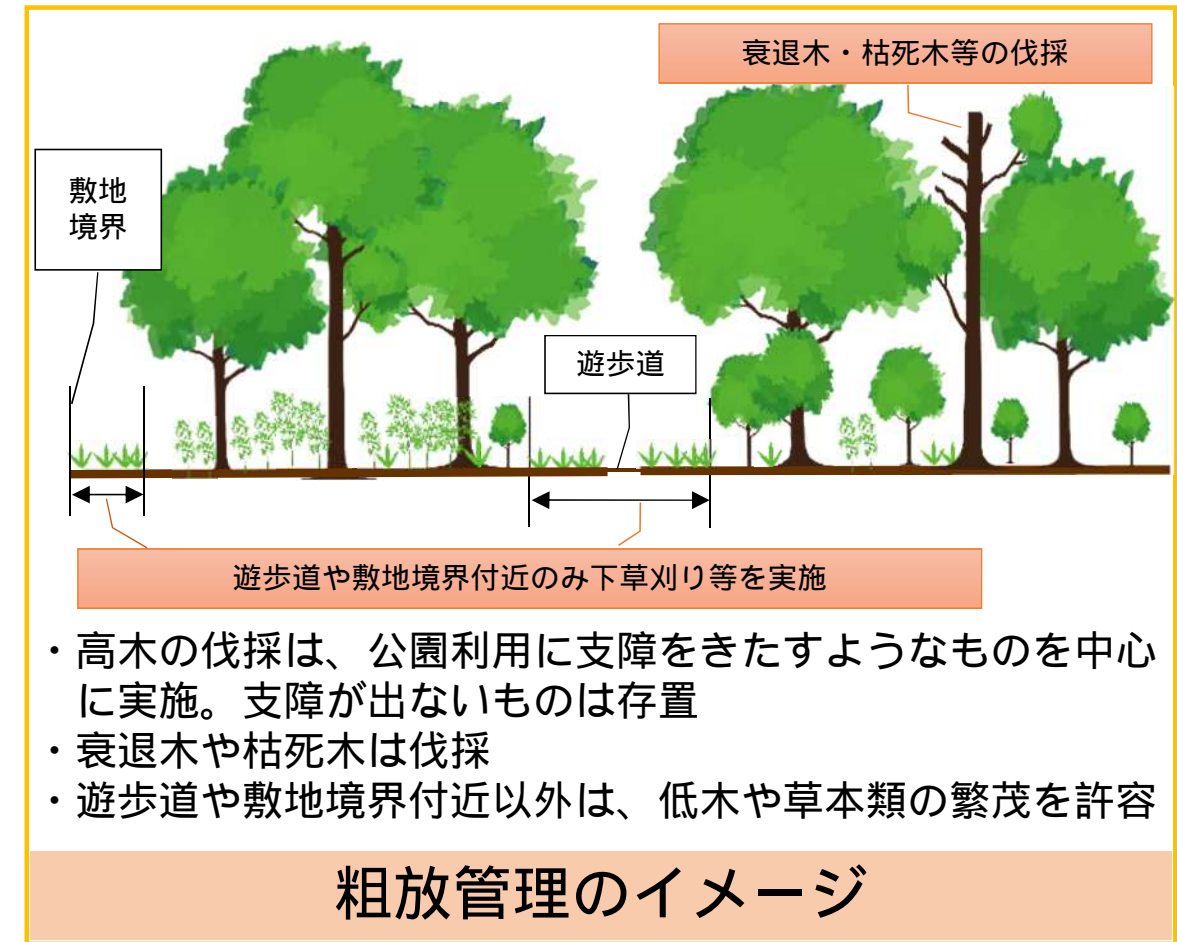
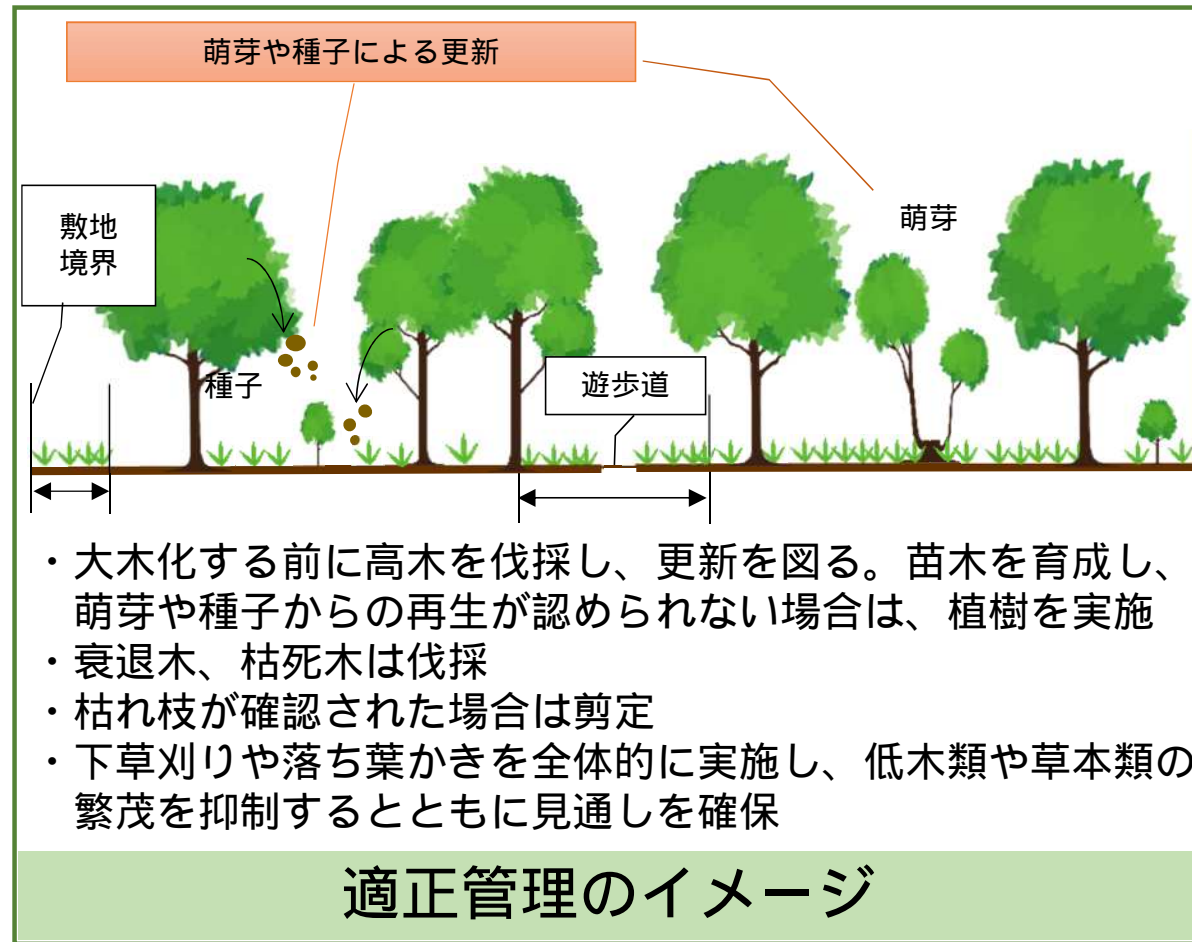
ムラサキシジミ



アズマヒキガエル

7 将来の植生プランに対する樹林地の管理方法（案）

- ・ 将来の利用を踏まえ「適正管理」および「粗放管理」により樹林地の管理を進める。
- ・ 新たに樹林地を形成していくため、苗木の育成・植樹により植生の再生を図る。



植生	管理方針	樹高・階層構造等のイメージ	更新方針
コナラ - イヌシデ林	適正管理	【高木層】直径30cm未満。樹高は最大15～20m程度を目安 【低木層】植被率10～30%以下（見通しを確保） 【草本層】高さ30cm以下。	・ 萌芽および散布された種子からの更新 ・ 高木の再生が認められない場合、現地に生育するコナラ等の樹木の種子を用いて苗木を育て、植栽する
クヌギ林			
シラカシ林	粗放管理	【高木層】樹高は20～30m程度まで成長 【低木層・草本層】高さ1～3m (ササ類が密生する場合は植被率が100%となる場合もある)	・ 自然の更新
ムクノキ - エノキ林			
その他の樹林			
ススキ群落 (アズマネザサ - ススキ群集を含む)	木本類の生育抑制のため、1年に1回程度の草刈り	【高木層・低木層】なし 【草本層】高さ1～2m程度	・ 自然の更新
チガヤ群落	木本類の生育抑制のため、1年に1回程度の草刈り	【高木層・低木層】なし 【草本層】高さ0.5～1m程度	・ 自然の更新
湿生植物群落、水田	特別な管理は実施しない。	【高木層・低木層】ハンノキ林の再生 【草本層】ヨシやカササゲ等の再生	・ 自然の更新

カタクリ、キツネノカミソリなど希少植物の生育範囲ではそれらの生育環境に合わせた管理を実施